

なりたの昔話

第16回

このコーナーでは、昔から語り伝えられてきた成田の昔話や伝説などを掲載しています。
【参考文献】コミュニティ成田No.42(1993年1月発行)

赤萩の四八馬鹿

市内・赤萩地区に伝わる古いお話です。

江戸時代のこと、ある日、名主の家に役人が来ることになり、村人たちは接待の準備におおわらわでした。

ご馳走を作って接待することが決まり、ムキミとキュウリを混ぜて、上に大根おろしを載せようとしたが、あいにくおろし金が見つかりません。やむなく、自分たちの歯でかんでおろしました。

大根おろしを皿に盛って、恐る恐る役人たちに供したところ、唾液が付いて味が良くなったのか役人たちは大喜び。

ところが、その後がいけません。ひとつの皿から大きな奥歯が出てきました。びっくりした役人が問いただしますと、村人たちは、「おろし金がなかったので、仕方なく自分たちの口に入れて作りました」

とあっさり白状しました。

役人たちは怒るよりもむしろあきれ果て、当時の戸主が48人であったことから「赤萩の四八馬鹿」と揶揄したそうです。



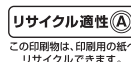
編集後記

以前に健康ばらんていあの1つ、ノルディックウォーキング世話人会を取材しました。ノルディックウォーキングは両手にスキーのストックのようなポールを持って歩くフィンランド生まれの新しいウォーキング。約80年前にクロスカンリースキーの夏場のトレーニングとして始まったそうです。ポールを使うことで全身の筋肉をたくさん刺激、体力づくりやメタボ対策、肩や首の凝りの解消にも効果的と、要注目の運動です。

平成25年9月15日号 No.1251

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。